

脱炭素等に関する取組紹介

更新日 2026年1月15日

<p>団体名</p>	<p>株式会社 グリーンアース</p>
<p>取組内容</p>	<div data-bbox="402 459 906 1153">  <p>千葉県内から排出される剪定枝を、動物たちの環境を支えるエネルギーに ～地域資源を無駄なく活かす、地産地消型のバイオマス活用～</p> <p>株式会社グリーンアースは、千葉市中央区に所在する「千葉キャピタルバイオマスセンター」を拠点として、樹木や草に特化したリサイクルに取り組んでおります。近年では、チップの特性を最大限に活かし、資源を使い切るしくみ作りと、地域の資源を地域で循環させることにも取り組んでおります。地産地消型の循環を目指して、千葉市の脱炭素社会の実現に向けて尽力してまいります。</p> <p>家庭系剪定枝リサイクルの取り組み</p> <p>千葉市では、ご家庭から出る剪定枝を「地域資源」として活用する取り組みを進めています。</p> <p>千葉市では平成29年度より家庭系剪定枝の再資源化事業を開始し、年間7,000tの再資源化を目標としています。市内のご家庭から排出される剪定枝は、ゴミステーションから収集後、弊社施設に搬入され、適切な処理を行い、焼却していたゴミを資源として活用できるようになりました。</p> <p>家庭系剪定枝資源化の流れ</p> <p>千葉市全域から剪定枝が搬入 → 作業員による手選別作業 → 破砕作業 → 分級作業</p> <p>月2回の収集日が地域ごとに設けられ、収集業者様により施設に搬入されます。</p> <p>ごみや異物を手選別で取り除き、破砕前の原料の品質をチェックします。</p> <p>破砕機は2台設置し、万が一にも備え、施設を止めない対策を行っています。</p> <p>高性能選別機でダスト分をしっかりとろすことができようになり、品質が安定しました。</p> <p>中間処理施設 千葉キャピタルバイオマスセンター</p> <p>バイオマスボイラー-燃料</p> <p>バイオマス発電燃料</p> <p>家畜の敷床</p> <p>草チップによる土づくり</p> </div> <div data-bbox="938 459 1436 1153"> <p>剪定枝や割りばしが地域のエネルギーに変わるまで</p> <p>千葉キャピタルバイオマスセンターにおいて生産されたチップは、破砕後人工的に乾燥させることで汎用小型バイオマスボイラーでの使用が可能となります。脱炭素先行地域においては、千葉市動物公園内に新設されるバイオマスボイラーの燃料として使用される予定です。</p> <p>動物公園のバイオマスボイラー導入に伴い、市内のイベントで発生した割りばしを回収・資源化し、ナッジ等による環境配慮行動の啓発を促進します。</p> <p>チップ水分率 約50% → 乾燥チップ製造 (チップ水分率 10～25%) → 小型バイオマスボイラー</p> <p>1. 破砕・分級 → チップ生産 2. 乾燥チップ製造 3. 千葉市動物公園熱利用</p> <p>グリーンアースの「緑をTENKAIする」取組み</p> <p>マルチスプレッド工法 農地再生 NEDO エネルギーの森実証事業 農業向け土壌改良材</p> <p>造成現場などで伐採木を現地焼却し、チップを法面に吹付け、法面の表面を保護する工法です。</p> <p>草チップを利用して、耕作放棄地の土づくりを行い、農業を行っています。</p> <p>耕作放棄地を利用してバイオマス燃料となるササネ草が生産(早生樹)の実証事業を、NEDO事業として実施中です。</p> <p>草木灰、草チップ、メタン発酵消化液を原料とした農業向け土壌改良材の開発(約1haを、公民連携で進行中です)。</p> <p>会社概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 会社名: 株式会社グリーンアース ■ 設立: 2001年6月25日 ■ 所在地: 千葉県市川市堀之内3-21-1 ■ 営業所: 市川グリーンプラント(市川市) 千葉キャピタルバイオマスセンター(千葉市) 印西グリーン工事支店(印西市) ■ 代表者: 代表取締役 石井 雅士 ■ 従業員数: 77名 ■ 許認可: 一般廃棄物収集運搬業許可 産業廃棄物収集運搬業許可 一般廃棄物処分業許可 産業廃棄物処分業許可(設) 建設業許可(設) ■ その他: ちばの木取扱事業者 木質バイオマス取扱事業者 ISO9001 </div>

株式会社グリーンアース | 植物資源材リサイクル事業、伐採・除根工事、造園・土工事は株式会社グリーンアースへ